

令和5年度 第1回 小平市文化財保護審議会 会議録

日 時 : 令和5年6月16日(金) 午後3時～

場 所 : 市役所本庁舎5階 502会議室

出席者 : 小平市文化財保護審議会委員(9名)
事務局(5名) 文化スポーツ担当部長、文化スポーツ課長、文化財担当係長、主任、小平市文化振興財団ふるさと村担当係長

傍聴者 : なし

1 文化スポーツ担当部長挨拶

2 委嘱状交付

3 委員自己紹介

4 事務局職員紹介

5 正副会長選出

6 報告事項及び議題

(1) 文化スポーツ課、小平市文化振興財団

小平ふるさと村令和4年度事業報告・令和5年度事業計画について

【事務局】 令和4年度事業報告ですが、振替実施をふくめ33本の事業を実施しました。1年間で66,517人の来園者をお迎えし、コロナ禍により減少した来園者数が、コロナ以前の人数に回復しました。

次に令和5年度事業計画の事業計画を説明します。事業目標は、「①地域の歴史・伝統文化の継承」伝統行事の展示や伝統文化の体験教室など、地域の歴史や文化を楽しむ催しを実施し、学び・体験の機会を創出することで、来園のきっかけを作り、施設の知名度の向上を図る。また、価値ある「遺産」を構成に継承するとともに、施設の有効活用を図る。「②多種多様な団体や人材とのネットワークを活用した事業の推進」地域の大学など教育機関、障がい者作業所などの福祉施設、市内の市民活動団体など、多種多様な主体と連携し、それぞれの特性を生かした事業の企画、実施を進める。「③地域の振興と「にぎわい」の創出」になります。これにもとづく来園者が集い楽しむことのできる魅力ある催しを実施し、地域に活力を生む「にぎわい」を創出する。令和5年度事業は、郷土の歴史的文化の継承に関するものを32本、地域の振興に関する事業を11本

の、合計 43 本の事業を計画しております。

すでに実施した事業としては、4月8日の春を楽しむや5月4日のふるさと村のうどん祭りなどで1,000人を超える来園者がありました。来園者に地域の歴史や伝統文化を体験していただき、地域振興的な観点から皆様に楽しんでいただけるよう事業を行っていきたいと思います。

【委員】 高垣については二段高垣といって二段構えになっている。これは非常に高く5メートルか6メートルにもなる。武蔵野台地特有の乾燥した環境に必要なものとして作られている。昔から武蔵野というのはどの範囲を示すのかということが話題になるが、私は高垣がある地帯が武蔵野だと思っている。昔は道路沿いの農家にはあるが、道路拡張などによって失われている。今後も失われていくので、このような文化財的価値のあるものを是非ふるさと村などで残していただければと思う。

手入れについても特別なやり方があり、棒を差し込みそこに梯子を入れるなどといった方法で行っており、私はその写真を撮ったりしたこともある。おそらく古い農家にはそれらにかかわる道具などがあると思うので、残してほしい。実際のこの方法で手入れについては、労働安全確保の観点から現在では実現できないと思う。

もう一つはウツギの垣根。これは枝を差し込むだけで根づくため、土地の境界に植えられていた。真っ白な花を咲かせる。小平に文化財があまりないとはいったが、なかったら作ればよいのではという観点から、こういったものを公園の境目などに植えられれば良いかと思う。

【会長】 シラカシとヒイラギモクセイの高垣とその管理をする長いはしごが残っていれば、それを民具として保存していく必要があるということ、もう一つはふるさと村で高垣やウツギの垣根などを残していければということであった。ちなみにシラカシの高垣はあるので、ヒイラギモクセイを植えようとおもったらその苗はどのくらいするのか。

【委員】 ヒイラギモクセイは人気がないので安いと思う。

【委員】 黒板塀を修繕するときに、本来黒板塀はあの時期・地域の建物にそぐわないというお話があったと思うが、これは次の修繕の時にウツギの垣根にするなどといったことは考えられないか。

【委員】 その時には言わなかったが、あの場所では狭すぎるかなと思い発言しなかった。

【委員】 来園者については、市内外というのは分かっているのか。人数が多ければいいというわけではないが、目標人は設定していないのか。

【事務局】 市内外という情報については、把握しておりません。人数については今年度6万人以上という目標はございます。

【委員】 5・8・11月に人数が多い、そういったときに高垣の作業をするなどすれば、よりよいのではないかと思う。せっかくこういったデータが存在するので、それは活用した方がよい。5・8・11月が高垣の作業に向いている時期かどうかはわからないが、貴重な伝統的な剪定作業について子どもたちに見てもらうことはできないか。

【委員】 前に市内外といった情報をみたことがあるように思います。

【事務局】 イベントの際の参加者アンケートについてはその居住地の情報を収集しますが、それ

以外の通常時については居住地の情報は把握しておりません。

【事務局】 イベントを行っている時に、グリーンロードを通る方が入ってくるということがあるので機械で人数を把握することしかできません。居住地や年代などの情報を得て活用できたらよいと考えます。

【会長】 勤務先の博物館では、日にちを定めてアンケートなどを行い情報収集している。年間毎日続けるというのはかなり大変だ。イベントの時に調べるだけでかなり把握できるのではないかと思う。そういったことで顔が見えてくるといったことが考えられるのではないか。

【委員】 所属していた鎌倉公園整備事業の検討委員会では公園内に用水を引き込んで、小平を語るうえで重要な用水を感じてもらおうという案が挙がっていたのだが、今の資料・計画では載っていないようだ。

高垣についても都市景観としての観点からも狭いところではなく、もっと広く話をしてほしい。

鎌倉公園については、農業公園というコンセプトもあるということなので、武蔵野独特の高垣のゾーンがあってもよいのではないか。府中街道や青梅街道に極彩色の看板が多くなって、きれいな景観が失われている。

【会長】 運営費用を圧迫しないようなものであるので、高垣やウツギの垣根については導入を考えてもよいのではないかと思う。文化財建物などにたいして、そういうものをちょっと足すということで、より元の景観を復元することができれば良い。

【事務局】 旧神山家の前とかきの木公園の境には高垣があります。また、かきの木公園の境界にはヒイラギモクセイが植わっていたのではと思います。確認します。

【事務局】 高垣用の梯子については民具庫には未収蔵だったと思うので、今後寄贈のお話などがあればそういった視点を持って対応していきたいと思います。

【会長】 事業の中で行っている、あぼひぼやエベスコなどの年中行事についてどんどん分らない人が増えていると思う。こういったものも無形文化財の対象となりうるのかなど考える。実際こういう展示をされて反応はどうか。

【副会長】 見に行くようにしているが、ふるさと村のスタッフは解説をしっかりとされており、親子の会話につながっており、展示見学者は理解されているのかと思う。

(2) 文化スポーツ課

① 令和4年度鈴木遺跡資料館の入館者数について

【事務局】 令和4年度の鈴木遺跡資料館の入館者数は、合計で3,002人でした。ふるさと村と比べてしまうと圧倒的に少ない状況ではありますが、8年前に入庁した時はまだ年間千何人かでしたので、これでも毎年少しずつ増えてきている状況です。鈴木遺跡が国史跡に指定されたことで、少し弾みがついてきているものと存じますので、今後とも絶対数は少ないながらも、これを積み重ねていくことによって鈴木遺跡資料館の入館者数の増につなげて行きたいと存じます。

【委員】 小学生の来館者数が非常に少ない月なども散見されるが、この人数には校外学習なども含まれているのか。

- 【事務局】 この数値の中にはいわゆる学校の総合学習の一環で、小平の昔を学ぶというテーマ設定をされた先生が、児童を鈴木遺跡資料館に見学させたいという事で、対応した件も含まれます。
- 【委員】 3月は200人、1月は13人などずいぶん差がありますが、うまく均すなどできればと思う。最近では電車によって校外学習をするといったことを先生方が好まれないなどと聞くが、電車に乗るのも社会経験になると思う。子どものころから市内の他のところ、遠いところからも来てくれるとよいと思う。
- 【委員】 中学生・高校生の来館人数が少ないのは大変残念である。私も数年前初めて資料館に行き、こんなところがあるのかと驚いた。資料館の外観がもう少しなんとかならないのか、少し調べたらあの場所は増築できないということで、目を引くような工夫を施して、中高大学生が入りたいと思うような施設にしていく必要があるのではないかと。入ってみると素晴らしい資料をみられるのだから。改修には予算が必要だが、施設としてまずいと思う。
- 【事務局】 資料館の外観につきましては、これまでもご意見が寄せられまして資料館がどこにあるか良く分からないとか、ご指摘を受けました。のぼり一つでも違うと思えますとの指摘を受けて、のぼり旗とか横断幕とかそういったものを付けました。今、委員が言われたように、若い人をどう呼び込むか鈴木遺跡資料館に限らず博物館共通の課題です。例えば東京国立博物館では、近年刀剣を趣味にしている若い女性が増えており、常設展示の刀剣コーナーに長蛇の列ができ整理券を配るほどの盛況ぶりがあります。そのような流行り物がないとすると、外観について何か一工夫すればよいのではとご助言かと思えます。具体的に何か一例挙げていただけますとありがたいです。
- 【委員】 例としては資料館外壁をガラス張りにする見える化などが挙げられる。今の扉だと倉庫の扉にしか見えない。
- 【副会長】 ガラス張りだと、割られて侵入されたという被害があったと聞いたことがある。
- 【会長】 ガラス張りにすると防犯の問題もありますし、展示品を守るという点からは紫外線対策の問題もある。一方では収蔵庫をガラス張りにする例はある。
- 【委員】 これまで少ない予算で職員の方が頑張ってきてここまでできたので、これからはそういったことにも気を配っていければよいのではと思う。
- 【事務局】 施設のガラスを使用した見える化というのは、外観全体というのは私は聞いたことが無いですが、近年の博物館のトレンドとして、普段見えない博物館のバックスペースを見える化するために、整理室だとか収蔵庫の一部をガラス張りにして来館者に見せるということは、自然系の動物園・水族館・昆虫館などで増えていて好評です。鈴木遺跡にどうやって取り入れるかは、よく検討を要すると思えますけども、博物館の今後のあり方の一だと思えますので、今後リニューアルする際の参考にさせていただければと思います。
- 【会長】 バックスペースの公開は、作業している人としては落ち着いて従事できない面がある。
- 【事務局】 作業員自身が展示されているような気分になります。
- 【委員】 技術的に割れないガラスもある。どうしたらできるのかという方向で考えていけば自

身は実現可能と考える。

【委員】 資料館はずっと現在地においておくのか。

【事務局】 資料館については、将来的には移転を検討することとなり、ただし史跡指定地には建てられませんから、適切な場所を探していくことになっております。鈴木遺跡の史跡保存活用計画にもそのような形に表しています。

会長のおっしゃられたとおり、遺跡の出土品を適切に保存・管理していくということが極めて大事なことです。見える化という手法もあるとは思いますが、価値を適切に守っていくということが必要です。一方で近年は文化財を見せていこうとのことで保存・活用という点も重要視されております。

移転というのは長期的な話であり、文化庁にもそのように説明しておりますので、史跡保存活用計画にのっとなって進めていきたいと考えています。

【会長】 保存と活用というのは両輪の関係にあり、そういった観点から考える必要がある。また、資料館がこれから十年単位で移転しないのであれば、内部のリニューアルを考えてはどうか。若い人に来てもらうにはツイッターなど活用して見てもらうという方向にしていけないと、いけないと思う。インフルエンサーとかに来てもらうとか、認知度を高めていく必要がある。仕事の負担にならない範囲でよいと思うが。

【事務局】 会長のご勤務先では、ツイッターのアカウントをとって、内部職員が発信されているということでしょうか。

【会長】 そのとおり、広報業務の一環として行っている。

② 令和5年度 小平市文化財保護事業について

【事務局】 今年度初めて行う事業は以下の通りです。

まずは、小平市指定有形文化財「海岸寺山門」茅葺屋根解体修理事業の補助ですが、「山門」は屋根が茅葺になっています。これまでの文化財保護審議会でも報告してまいりましたが、この屋根の茅の傷みが進行して、構造材に雨漏りが発生しており、構造材にも亀裂が発見されたため、持ち主の海岸寺さんが市の補助を受けて修理を実施したいとの申し入れがありました。部分補修ではなくて一部解体修理で行いたいと言うことで、それについて補助を行っていきます。このことについては、現在、海岸寺さん側で業者の選定等を進めているところです。海岸寺さんには、補助金の交付が決定し事業が行われることが確定しましたら、市民向けに解体の公開等ご協力をお願いしますと申し入れしておりますので、その際は文化財保護審議委員の皆様にも視察する機会を審議会の中で設けたいと思います。

国指定史跡鈴木遺跡保存活用事業は、鈴木遺跡の中で史跡指定されている、特に旧石器が濃密に埋蔵されているところの一つに旧農林中央金庫の跡地がございます。ここは面積が約1万4千㎡弱ありまして、将来的に史跡広場として、旧石器時代当時の景観を感じられるような空間を目指して史跡整備を行います。

その整備に当たっては、用地内の試掘調査を今年度行う予定です。旧石器時代なのでどの深さまで掘ると旧石器が埋蔵されている地層に到達するのかを把握するものです。

調査内容としては地味ですが、このことがわからないと史跡管理上必要最低限の柵も設置できないわけです。この調査も市民向けに現地説明会を開催して公開するようなことを、発掘の時にやりたいと考えています。旧石器が含まれる地層は地中でどのように堆積しているのか、普段市民の方が見る機会は無いと思われるので、現地説明会を行いたいと思います。今後は史跡整備に向かって、来年度以降実施予定の整備の基本計画を策定したり、工事の基本設計、実施設計等を進める上で必要な予備設計調査、土木工学的な予備設計調査を進めていきたいと思っております。今年度は最低限必要な現地測量図・実測図の作成、それから現在ある用地の中にある樹木の中で、活かせるものは活かしていきたいと考えております。

【委員】 海岸寺山門の修理は、審議会とは別に委員が視察する機会を設定するのか。

【事務局】 この件は、審議会の際に合わせて視察を行いたいと考えています。ほぼ1年かけて工事を行いますので、修理工程のいずれかの段階に御覧いただくことはできるのではないかと思います。

【委員】 工事の経過ごとに定点撮影・ビデオ撮影を行うよう、特記仕様に入れてもらうべき。

【事務局】 本件については、事業主体は海岸寺さんであり、補助事業なので市として相談するというレベルにはとどまるとは思うのですが、打診はしてみたいと思います。

【副会長】 教育普及事業については今年度は実施するのか。

【事務局】 令和4年度は、遺跡ウォークが定員の倍の申し込みがありましたが、当日天候の都合で中止となってしまいました。お断りの電話をするときにとても残念と多くの方に言っていたこともありますので、今年度にできるかぎり行いたいと思います。また、石器づくりなどについても行えたらと思います。

【副会長】 特別展などについても行ってほしい。

【会長】 イベントなどを含めて、文化財への理解を深めていただくきっかけになればと思う。

〈次回の日程について候補日をお知らせしたのち終了。〉